

ふうしゃだより

WINDMILL LETTER

2022.
9月号

皆様こんにちは。日本風力エネルギー（株）です。

「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉の通り、涼しくなってきましたが、今夏、日本各地で観測された記録的な暑さの発生確率は、人間活動が原因の地球温暖化により、240倍に高まったと気象庁が発表するなど、「地球温暖化」の影響が我々の身近でも起こっています。さて、今月号の注目のコンテンツは以下の通りです。



注目CONTENTS

- ・「グリーンインフラ：自然環境が有する機能を活用し、より良い社会を作っていく取り組み」公立鳥取環境大学 環境学部 加藤禎久先生インタビュー
- ・風力発電所の「地球温暖化抑制」と「地域経済基盤づくり」への貢献について



弊社が計画しております「(仮称)鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できますと幸いです。環境影響評価方法書への知事意見として、「住民等一人一人にきちんと情報が届くように丁寧に説明をおこなうこと」が求められました。「ふうしゃだより」が情報提供の一端を担えるよう尽力してまいります。

お問い合わせ

日本風力エネルギー株式会社 鳥取事業所（鳥取風力合同会社）
〒680-0404 鳥取県八頭郡八頭町見槻中154-2 準LAB 2-A
TEL. 0858-76-0700 FAX. 0858-76-0701



(仮称)鳥取風力発電事業 専用サイト：<https://project.venaenergy.co.jp/tottori/>

風力発電がもたらす効果

風力発電所は、 地球温暖化抑制へ

貢献するとともに、

地域経済の基盤づくり

にも貢献します。

日本風力エネルギーは、
地域との共存共栄を図りながら、
風力発電所の開発を進めています。



(仮称)鳥取風力発電事業の開発・工事・建設・撤去の各フェーズにおける
経済波及効果(概算)をまとめました。様々な地元企業や事業者からのご支援をいただきながら、
鳥取風力発電事業を進めてまいります。

(仮称)鳥取風力発電事業の地球温暖化抑制への貢献

CO2

二酸化炭素排出削減
122,000 トン/年

節水効果

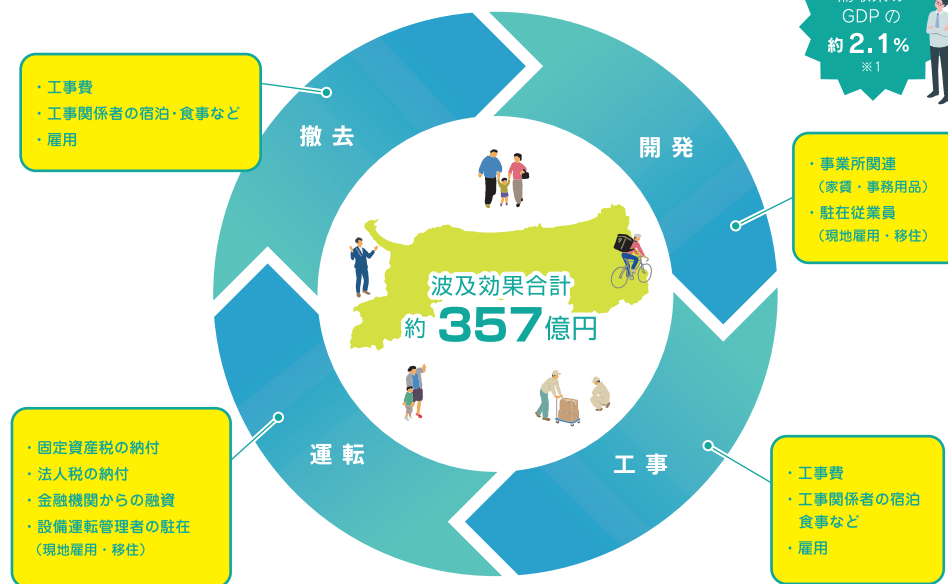
1億7,400万 トン/年

(中里風力発電所の2倍程度として概算)



(仮称)鳥取風力発電事業の事業規模450億円をベースに試算 (埼玉経済波及効果ツールによる試算)

鳥取県の
GDPの
約2.1%
※1



開発



・事業所の駐在従業員
(現地雇用+移住)



・事業所関連
約16億7000万円
家賃・事務用品
(コピー機、文房具)など
※事業所関連は、開発・工事・運転・
撤去まですべての期間の合計

工事



・工事費 約180億円
土木・電気工事・ガソリン
コンクリート関連事業者など

・雇用: 約600名 ※2
建設中を通じて一日当たり
最大の雇用を創出と想定



・宿泊・食事など 約9億円
対個人 (工事事業者など)
へのサービスなど

運転

・固定資産税の納付
約3億1500万円×17年
風力発電1基(約900万円/年)
×35基×17年
※減価償却期間を17年間として計算

・法人税の納付
売上30~40億円/年程度
に対する法人税×30年

・金融機関からの融資
約8億円
建設費などの融資

・設備運転管理者の駐在
10名強を現地雇用+移住
(1/3規模の中里風力発電所※3は7名が常駐)

撤去



・撤収工事費
土木・電気工事など



・宿泊・食事など
対個人(工事事業者など)
へのサービスなど

・雇用

※1 鳥取県平成30年度名目県内総生産1兆8,934億円と比較した場合 ※2 約3分の1の規模の中里風力発電所は200名の雇用を創出した
※3 中里風力発電所は、設備出力47MW、風力発電機13基。(仮称)鳥取風力発電事業の規模は設備出力144MWを想定しています。

話題のインタビュー

\ interview theme /

地域の風を活用して、クリーンなエネルギーを供給する風力発電は、自然環境が有する機能を活用し、より良い社会を作っていく「グリーンインフラ」といえる



公立鳥取環境大学
環境学部・准教授

加藤 禎久 先生

都市・流域スケールでの景観生態学に基づくエコロジカル・プランニングがご専門分野。

Q 先生のご専門である「緑地計画学」について教えてください。

A 緑地計画学は、緑地（みどりや水がある場所、建物が無いオープンスペース）の広域（自治体や流域スケール）での空間配置計画を考える学問分野です。例えば、連続した緑地を確保することにより、動物の移動や分散が可能になり、地域の生物多様性の保全に貢献できます。また、都市の中で住宅地から徒歩圏内で公園や農地を配置することにより、住民の健康やレクリエーションなどの需要に応えることができます。

人間が周辺の自然環境に与える影響、逆に環境が変わることで人間が受ける影響を考えながら、より良い緑地空間を作っていくことを考える学問です。

Q 土地活用に関して、注目されている「グリーンインフラ」について教えてください。

A グリーンインフラとは、自然がもともと持っている様々な機能を社会資本整備や土地利用に活かす考え方や取り組みを指します。自然は本来、多様な機能を私たちに無償で提供しています。例えば、木材や食糧の供給、森林の土壌保全・保水などの機能、水や栄養塩の循環、自然の文化的利用などです。コロナ禍でキャンプが人気ですが、これも自然と触れ合うことでレクリエーションや癒しを得ているわけです。他にも、屋上緑化や「緑のカーテン」などの壁面緑化、雨庭や緑溝などで都市の内水氾濫を抑制したり周囲の気温を下げたりするような効果も、自然が本来持っている機能を活用し、地球温暖化などの社会課題の解決に活かすグリーンインフラの例になります。

また、広く捉えると再生可能エネルギーである風力発電も、自然の風からエネルギーを取り出して発電するので「グリーンインフラ」と言えると思います。

Q 新たな土地利用方法である風力発電所が「観光地」になっていくことは考えられるでしょうか。

A 十分に考えられます。今までは森林だけだったところに風力発電という人工的な構造物ができることで、「新しい景観」が作られるわけですが、私の分野では新たな「文化的景観」の創出といえます。通常、文化的景観とは、屋敷林のある富山県砺波平野のような、長い年月をかけて人間が自然に手を入れて作り出してきた景観を指すのですが、風力発電所のように比較的短期間で建設される建造物が新たに魅力的な景観を作り出すことは十分に考えられます。例えば、ビニールハウスに光が反射する様や半透明な構造物が並んでいる様が美しいと評価されたり、工業地帯の夜景なども撮影スポットになったりしているので、風力発電所のある風景が新たな文化的景観になる可能性は十分にあると思います。

風車のあるオランダの農村が観光地化されているように、日本で風車が建つ景色を新たな「文化的景観」として肯定的に評価することも可能なのではないのでしょうか。

Q 風力発電所の開発が、防災や減災対策となるのでしょうか。

A 風力発電所の建設においては、自然を改変するので風力発電所の建設そのものが防災や減災対策になるとは言えない。しかし、例えば、杉などを植樹された人工森林（造林）において、林業としての採算性が低い、後継者がいないなどの理由で、間伐や下草を刈るなどの管理が行き届いていない場合、風力発電所の道の利用や事業者と共生する事で森林管理が上手くいけば、ひいては森林の防災・減災機能が維持できることになると言えます。

その他、エネルギーの供給、雇用の創出、事業者による地域貢献など、地域に供給される副次的効果や経済波及効果があると思います。